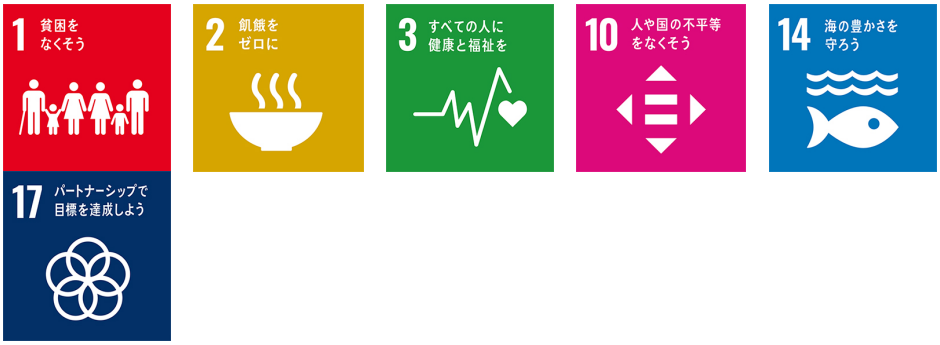
名古屋市立大学
SDGs活動レポート
（2022年度版）

USM（マレーシア科学大学）研修報告



活動の概要	USM短期研修は「グローバル未来都市共創に資する次世代研究者エンパワメントプログラム」の一貫です。同プログラムは、すべての研究科のあらゆる研究分野の博士後期課程・博士課程学生を対象に選抜を行い、経済的な支援を行うとともに、学生個々の着実・堅実な研究力に上乗せする形で「プレゼン力」「交渉力」「合意形成力」「行動力」というスキルセットを獲得させること（エンパワメント）を目的としています。今年度より始まった本研修では、現在まだ顕在化していない問題も含めた、都市が抱えるさまざまな社会課題を通じてそれぞれの研究課題を俯瞰的にとらえる能力を鍛え、幅広い視野と情報発信力・交渉力を涵養することで、個々人のキャリア開発につなげるとともに、未来都市共創に資する新たな博士人材を創造することを目的としています。 参加したのは、医学研究科から上木あかねさん、薬学研究科から藤田みのりさんの2名で、人間文化研究科の曽我幸代准教授と林敏博寄附講座准教授が引率しました。参加者は、事前にSDGsを学ぶ事前研修を受け、持続可能な社会づくりとは何かを考える機会をもったうえで、2022年9月12日から19日にかけて、マレーシア・ペナン島にあるマレーシア科学大学に赴き、約１週間の研修を受けました。この実施にあたっては、USMのJCC（Japan Culture Centre）の協力を受けています。 USMでは、マレーシアが抱える文化・医療・難民・貧困・飢餓等の社会課題について、社会学部や生物学部の教授陣が講義をしてくださったり、難民が通う学校でのボランティア活動を行ったり、大学内にあるイスラム開発管理センター、麻薬センターや海洋センターを視察して、どのような問題を扱い、研究しているのかの概要説明を伺ったりしました。いくつかの講義や視察、市内のフィールドワークを経て、参加者は自らの専門知を生かして、最終プレゼンテーションを行いました。 本研修の詳細については、別添の「USM研修レポート」をご確認ください。 【参加した学生の感想（一部抜粋）】 研修では、マレーシアの歴史や貧困に関する講義の聴講、難民学校でのボランティア活動、研究施設訪問（ハラル、薬学、海洋学）などを行いました。今回の研修を通じて、人種や宗教が違っていても争うことなくお互いを尊重しあうマレーシアの多文化共生について理解を深めました。最終日のプレゼンテーションは、日本が今後多民族・多宗教国家になった場合、管理栄養士として私にできることは何かについて考える良い機会となりました。
活動の時期	2022年9月

USM研修レポート （PDF ファイル 0.52MB）

難民学校の子どもたち

Centre for Drug Researchのラボ見学

センター長、事務官、バディとのお別れ会

人文社会学部の学部生が「難民支援はじめてガイド」を作成しました

活動の概要	2022年9月、人文社会学部国際文化学科山本ゼミ所属の学部3年生が、難民問題の現状や名古屋圏での支援団体の情報などをまとめた「難民支援はじめてガイドin名古屋」というパンフレットを作成しました。 【学生たちのコメント】 私たちは、2022年の2月末以降、ロシアによるウクライナ侵攻によって避難民の方が来日されていることから難民支援について興味を持ち、難民支援という点から多文化共生を考えることをテーマにゼミの6人のメンバーでこの4月から活動を始めました。 難民に関するイベントに参加する中で、支援団体の方々から「学生には難民問題についての情報を広めてほしい」という声を頂き、多くの人に難民問題に関心を持ってもらうため、支援団体と難民問題に関心を持つ人々をつなぐパンフレットを作成しました。難民問題の現状について理解しやすいこと、そして具体的なアクションに繋がりやすいことに拘り、難民に関する基本情報、名古屋市内の支援団体の紹介、支援方法などを掲載しています。 また、2022年11月10日に、私たちは大学の講義内で「難民問題ワークショップ」を開催しました。参加者に難民問題への理解を深めてもらい、自分なりの意見を持ってもらうことを目的とし、まずは難民認定や支援状況についての説明をし、その後2つのワーク(ディベートとシミュレーション)を行いました。 ディベートでは、自分なりの意見を持ってもらうことを目的に、「日本は難民受け入れを今後拡大していくべきか」というテーマで議論をしてもらいました。またシミュレーションでは、自分事として捉えてもらうことを目的に、シリア難民が日本に来るまでの困難を考えてもらいました。 参加者へのアンケートからは、ワークショップを通じて難民問題への関心度や理解度が上がった人が多いことがわかり、難民問題に関わるきっかけ作りができたのではないかと考えています。 参加者から出た多様な意見を知ることで、私たちも新たな考え方を学ぶことができました。
活動の時期	2022年9月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/student/11291500/

人文社会学部の学生が中区安心・安全・快適なまちづくりフェスタ2022に出展しました

活動の概要	2022年9月23日、名古屋市栄エリアのオアシス21 で開催された「 中区安心・安全・快適なまちづくりフェスタ2022」に、人文社会学部国際文化学科の山本ゼミが「遊んで学ぼう！多文化共生ってなに？」と題したブースを出展しました。当日は台風接近に伴う大雨にもかかわらず、3年ぶりの中区フェスタの開催に多数の人が来場し、多文化共生ブースではゼミ生が考案した2つのゲームを多くの方々が楽しんでくれました。 【神経衰弱ゲームチーム】 私たちのチームは中区に多く暮らしている中国、韓国、ベトナム、ネパール、フィリピン、ブラジルの人々の国の文化を紹介するために、これらの国々と日本を合わせた7ヶ国の伝統食や伝統衣装について遊びながら学ぶ、神経衰弱ゲームを考えました。当日は、多くの来場者の方がブースを訪れ、神経衰弱ゲームを楽しんでくれました。なかには勝負に勝ちたくてもう一度挑戦したいと、再度ブースに来てくれるお子さんもおり、一時は列ができるなど大盛況でした。 工夫した点は、神経衰弱のゲームを楽しんでもらうだけでなく、神経衰弱のカードに書かれた各国の伝統食や伝統衣装を詳しく紹介したチラシを作成して配布したことです。これによって、来場者の方に様々な国の文化に触れてもらい、多文化共生の理解を深めたり、興味を持ってもらったりする手助けになったのではないかと思います。 また、前に挙げた7ヶ国のうち好きな国旗を選んで、その国旗と一緒に写真撮影できるスポットも作りました。全体として、中区に住んでいる身近な外国住民の国の文化を楽しみながら知ってもらうことのできるイベントを行うことができました。 【やさしい日本語チーム】 やさしい日本語チームは、来場者にやさしい日本語に実際に触れて考えてもらうための「体験型紙人形劇」を実演しました。その人形劇のストーリーは、日本語が苦手な方が、生活するうえで目にする看板などの意味がわからずに困っているところを、来場者に看板の文章をやさしい日本語に変換してもらって、助けてもらうという、来場者も参加し体験してもらう形にしました。やさしい日本語をより身近に感じてもらうことを目標にして、病院や学校など、多くの人が過ごす日常生活にフォーカスを当てて、いくつかのパターンのお話を制作しました。 ブースには老若男女問わず多くの方が来てくれて大変盛り上がり、運営していてとても楽しかったです。しかし、そこで気づいたことは、やさしい日本語の認知度は想像よりも低いということです。そのため、今回のイベントを通して、一人でも多くの子どもたちや大人の方に、やさしい日本語について、単に知ってもらうだけではなく考えてもらうことができ、とても良い機会となりました。
活動の時期	2022年9月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/student/10211430/